

内閣総理大臣 安倍 晋三 殿
副総理大臣 麻生 太郎 殿

「ナチス」肯定の暴言を行った麻生副総理の辞職・罷免を求める

2013年8月2日 日本平和委員会

麻生太郎副総理が憲法改定に関連し、「ナチス」を名指しして「あの手口に学んだらどうか」と発言したことが、国内外の厳しい批判を浴びている。

ナチスが、徹底的に国民の政治活動を弾圧し、言論を封殺しながら、政権の思うままに政治を行う「授権法」を制定し、民主的なワイマール憲法を停止していった過程を「学ぶ」などという暴言が、侵略戦争とファシズムへの反省を原点とする国際社会と相いれないことは当然である。

このような政治感覚の持ち主に政治を担う資格がないことは明白である。我々は、麻生氏がただちに閣僚を辞任すること、そうでなければ、安倍首相が罷免することを求めるものである。

麻生氏の発言には、自民党がすすめる改憲の動きへの国民の批判を抑え込もうという意図がにじみ出ている。憲法9条を破壊して「国防軍」を設置し海外で戦争できる国づくりをすすめ、天賦の人権を否定して、「公益と公共の秩序」を口実に人権を抑圧できるようにする自民党の時代錯誤の改憲案に、国民が厳しい批判の意見を表明し、議論が沸き起こることは当然である。麻生氏はこれを「喧噪」と表現し、国民の憲法を守る議論の広がりも抑えつけようとしているのである。

麻生氏の今回の発言といい、安倍首相の侵略戦争への反省を明確に表明しない立場といい、憲法改悪をすすめる勢力がいかに異常で危険な歴史認識の持ち主であるかが改めて浮き彫りになっている。このような人々のすすめる歴史逆行の憲法改悪を断じて許すことはできない。

我々はそれを阻止するために、ひきつづき全力をあげることを、ここに改めて表明するものである。